

Morten Lauridsen (1943-)

„O magnum misterium“

M. ローリセン「大いなる神秘」

キリストの誕生の喜びと聖母マリアへの讃美を歌う。私達はテキストと音楽でその情景を思い浮かべることが出来る。馬小屋の扉を開けたら、幼子キリストの周りは柔かく優しい光に包まれている。そうろくの炎が穏やかに揺らめく。その周りでマリアと動物達がこの秘蹟に賛嘆している。ローリセンはアメリカの作曲家。1994年の作品。

O magnum mysterium,
et admirabile sacramentum,
ut animalia viderent Dominum
natum, jacentem in praesepe

Beata Virgo, cujus viscera
meruerunt portare Dominum
Christum.
Alleluia.

おお、大いなる神秘よ
驚くべき秘蹟よ
動物達は主が生まれたのを見た
飼葉桶に横たわっている主を

祝福された処女よ、
その胎は主イエス・キリストを
宿すことに値するものです
主を賛美します

*深い感嘆の言葉、„O“が神秘的なハーモニーの中で響き出す。

ローリセンのメロディーはシンプルであるが、そのラインは愛情がこまやかで、心の深部まで入り込んでくる。感覚的な充足感と幸福感が心地よく、キリストやマリアの美しい魂が、曲に織り込まれている。